

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■評価用マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 朝霞市本町一丁目 計画	階数	地上6階
建設地	埼玉県朝霞市本町一丁目1758番1、	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用	平均居住人員	150 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2020年1月20日
敷地面積	1,781 m <sup>2</sup>	作成者	一般建築士事務所共同エンジニアリング株式会社 金子 寛
建築面積	753 m <sup>2</sup>	確認日	2020年1月20日
延床面積	3,124 m <sup>2</sup>	確認者	一般建築士事務所共同エンジニアリング株式会社 金子 寛



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.2

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	エントランスのアプローチ部分のシンボルツリーを中心に周辺の緑の連続性に配慮した建物としている	その他 特になし
Q1 室内環境	専有住戸部分について、複層ガラスを採用する F★★★★の建材を採用している	Q3 室外環境(敷地内) 標準的な配慮を行っている
LR1 エネルギー	潜熱回収型ガス給湯器を採用している 共用部の照明を全てLED照明としている	LR3 敷地外環境 光害対策に配慮するなど、敷地外環境の向上に努めている 電気自動車スタンドを設置している
Q2 サービス性能	劣化対策等級3を取得	
LR2 資源・マテリアル	G L工法を採用することにより、躯体と仕上げ材が用意に 分別可能	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)朝霞市本町一丁目計画**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>							0.40		-	<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1.2 遮音						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1 開口部遮音性能						3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能						-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						-	-	-	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.6</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.9</b>
2.1 室温制御						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	1.00	
1 室温						3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能						3.0	0.38	3.0	1.00	
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.7</b>	0.25	<b>3.5</b>	1.00	<b>3.4</b>
3.1 昼光利用						<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50	
1 昼光率						3.0	0.60	3.0	0.50	
2 方位別開口						-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						<b>2.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.50	
1 昼光制御		レースカーテンとバルコニーで昼光制御				2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.15	-	-	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.6</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.6</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の建材を採用				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能						-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.8</b>	1.00	<b>3.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性						-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		各住戸においてGbitクラスのブロードバンドが可能				-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>3.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観						-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画						3.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.3</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		劣化対策等級3を取得				5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:水道用ポリエチレン管B 汚水排水:硬質塩化ビニル管B 雑排水:硬質塩化ビニル管B E 不使用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.1</b>	1.00	<b>3.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>		-	-	<b>3.2</b>	0.50	
1 階高のゆとり	階高2.95m	-	-	<b>4.0</b>	0.60	
2 空間の形状・自由さ		-	-	<b>2.0</b>	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		-	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>		<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.2</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>		<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>		-	-	-	-	<b>3.1</b>
<b>LR1 エネルギー</b>		-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	[BEI][BEIm] = 0.96	<b>3.4</b>	0.50	-	-	<b>3.4</b>
<b>4 効率的運用</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価		<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 水資源保護</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>1.1 節水</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>		<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		<b>3.0</b>	1.00	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>		<b>2.6</b>	0.60	-	-	<b>2.6</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>		2.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>		3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>	-	3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>	-	1.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>		2.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>	GL工法を採用することにより、躯体と仕上げ材が容易に分別可能	4.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>		<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>		<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ノンフロン断熱材の採用	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	ライフサイクルCO2排出率84%	<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>		<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>		<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>		<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策に配慮し、広告物照明を不使用	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称) 朝霞市本町一丁目 計画	BEE	1.0	BEEランク	★★★
------	------------------	-----	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
3.6	+	2.3	=	5.9 
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上  	非常によい 6.8以上   	すばらしい 8.0以上    	

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.6
ライフサイクルCO2排出率84%			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.3
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	1.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
標準的な配慮を行っている			

 : 入力欄